

平成25年度 オーラル・コミュニケーションⅠのシラバス

1 科目名、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書

科目名	OCⅠ	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	REVISED Sailing Oral Communication I				
副教材等					

2 学習目標

今までに学習した単語や文法をもとに、「話す」英語を学習します。さまざまな場面で自分の意思を英語で伝えることができるようになることが目標です。

3 学習方法

英語を話せるようになるためには、難しい単語や文法は必要ありません。その場面に必要な単語と表現を覚えることが大切です。そのためにはOCⅠの教科書に出てくる単語や表現を、何度も繰り返し声に出し、覚えるまで練習します。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Warm up 1	・自己紹介の会話表現	・自己紹介の方法を学ぶことができたか
	Warm up 2	・他者紹介の会話表現	・他者紹介の方法を学ぶことができたか。
	L1 What Day Is Convenient for You?	・予定を述べる会話表現	・自分の予定を話したり、相手の予定を聞く方法を学ぶことができたか。
	L2 How Was Last Sunday?	・週末の出来事について述べる会話表現	・過去の出来事について、質問をしたり答える方法を学ぶことができたか。
第2学期	L3 Could I Have an Extra Blanket? 飛行機内	・飛行機内での会話表現	・飛行機の中で自分の要求を依頼する表現を覚えることができたか。
	L4 Who's Calling Please?	・電話における会話表現	・電話での応答表現を学ぶことができたか。
	L5 How Can I Get There?	・道案内における会話表現	・人に道を聞く時、聞かれた時の答え方を学ぶことができたか。
	L6 May I Help you?	・買い物における会話表現	・買い物をするための表現を学ぶことができたか。
第3学期	L7 You Look Nice in That Dress!	・パーティにおける会話表現	・相手を褒めるとき、褒められたときの表現方法を学ぶことができたか。
	L8 I'm Not Feeling Well	・体調について述べる会話表現	・体の名称や症状の表現を使って、自分の体調を表現する方法を学ぶ。
	L9 I Want to Be a Diplomat	・将来について述べる会話表現	・未来について述べる表現を学ぶことができたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動に積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物 きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

◎要するに、「テストの得点＋普段の努力」が大切ということです。

平成25年度 ライティングのシラバス

1 科目名、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書

科目名	ライティング	単位数	4	履修学年・区分	第3学年 Bコース
使用する教科書	EXCEED English Writing New Edition (三省堂)				
副教材等	英単語集				

2 学習目標

◎ みなさんは、中学時代を含めた5年間の英語の勉強を通じて、多くの単語や熟語、文法を学びました。「ライティング」では、それらの知識を活用して、自分が伝えたいことを場面や目的に応じて英語で書けるように勉強します。いろんなことを積極的に英語で表現できるようになりました！

3 学習方法

◎ 正確に情報や考えを伝えるために必要なことは、①ポキャブラリーが豊かなこと、②文法を正しく身につけていること、③よい文章をたくさん覚えることです。そのために、単語集を用いて多くの単語を覚えたり、文法ベースで構成されている教科書の例文を何回も書いて練習したりします。目・口・手を使ってたくさんすることを暗記するのがライティングの勉強です。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Lesson 1～3	・文型(SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC)	・正しい文型を用いて表現することができたか。
	Lesson 4	・文の種類(重文・複文)	・重文と複文の仕組みを理解できたか。
	Lesson 5	・進行形	・現在進行形と過去進行形を用いて表現することができたか。
	Lesson 6～8	・完了形	・完了形の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
第2学期	Lesson 9～12	・動名詞 ・to不定詞(名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法) ・原型不定詞	・動名詞を用いて文を書くことができたか。 ・不定詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
	Lesson 13～14	・助動詞	・助動詞それぞれの違いを知り、使い分けながら文を書くことができたか。
	Lesson 15～16	・態(能動態・受動態)	・態の考え方を理解できたか。 ・受動態を用いて表現することができたか。
第3学期	Lesson 17	・分詞(現在分詞・過去分詞)	・分詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
	Lesson 18～19	・関係代名詞	・関係代名詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。
 評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。
 しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。
 ★授業に取り組む姿勢
 きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。
 ★提出物・・・きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。
 ◎英語の授業はいつでも、「テストの得点+普段の努力」が大切です。

平成25年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	集団行動 体力づくり運動 体育理論 (選択①) バレーボール, ソフトボール テニス, 卓球 水泳	①姿勢②方向変換③集合、整とん、番号、解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・ 体ほぐしの運動 ・ 体力を高める運動 ・ 体育理論 ・ 基本技術の習得 ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・ 基本動作(姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減)ができたか。 ・ 持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ より長く、より速く泳げるように、自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	体力づくり運動 体育理論 (選択②) バレーボール, ソフトボール テニス, 卓球 (選択③) バスケット, サッカー バドミントン, ダンス	・ 体力を高める運動(2km, 4km) ・ 体育理論 ・ 柔道(受身・寝技・立ち技) ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ 礼儀作法・技の習得ができたか。 ・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。 ・ キャッチボール、バッシングができたか。 ・ サービス、スマッシュ、ボレーができたか。 ・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・ パス、キャッチ、ドリブル、シュートができたか。 ・ キャッチボール、バッシング、パスができたか。 ・ 楽しく踊ったり、発表したりできたか。
第3学期	(選択③継続) バスケット, サッカー バドミントン, ダンス	・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・ サービス、スマッシュ、ボレーができたか。 ・ パス、キャッチ、ドリブル、シュートができたか。 ・ サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。 ・ 楽しく踊ったり、発表したりできたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。評価をする際には、次の①～⑤が重要となります。

- ①「体育」の授業に積極的に参加し、向上心がみられるか。
- ②協調性を持って、周囲と楽しく取り組もうとしているか。
- ③技能や安全面など、適切な状況判断ができるか。④与えられた課題に対して、しっかりと技能を習得することができるか、また習得しようと努力しているか。⑤技能・ルール・安全・理論に対する知識理解を深めているか。

※授業への取り組み+記録+目標設定への達成度

平成25年度 児童文化のシラバス

1 科目名、単位数、履修学年、履修区分、使用する教科書

科目名	児童文化	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース（選択）
使用する教科書	児童文化（教育図書）				
副教材等	専門書等より資料作成				

2 学習目標

子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得し、児童文化の充実を図る能力と態度を身に付けます。

3 学習方法

- ①講義（ワークシートを利用）
- ②実技（発表・相互評価）
- ③実技（作品制作・相互評価）

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	オリエンテーション 【児童文化とは何だろう】 ①児童文化とは ②児童文化を歴史から見る 【子どもと遊び】 ①子どもの表現活動 ②造る・描く ③言語表現活動 ④歌う・踊る・演奏する ⑤幼稚園における表現活動の実態	・文化活動、児童文化財、児童文化施設などの重要性について学ぶ。また、社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化する中での児童文化の役割について考える。 ・子どもの遊びの重要性や遊びの種類と発達との関係を学ぶ。 ・子どもの表現活動の意義を学ぶ。 ・伝承遊びの種類や遊び方、与え方を学ぶ。	・ワークシート提出 ・課題提出 ・ワークシート提出 ・児童文化財の制作、作品提出 ・朗読発表
第2学期	【子どもと文学】 ①紙芝居 ②絵本 ③児童文学 ④アニメーション 【現代の子どもの生活と文化】 ①テレビ、キャラクター ②ゲーム ③子どもと年中行事 【課題研究】	・絵本を各自15冊以上読み、読書カードを作るとともに読み聞かせの発表をする。 ・紙芝居の発表をする。 ・テレビ、キャラクター、ゲームについて認識を深める。 ・折り紙、ちぎり絵、絵本等を各自で制作する。	・ワークシート提出 ・読み聞かせカード ・読み聞かせ発表 ・紙芝居発表 ・ワークシート提出
第3学期	※2学期の続き		・作品制作、提出

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。
講義中心の座学もありますが、実技がメインの授業です。また、定期試験は実施せず提出されたワークシートや作品で評価を行います。
美術や家庭科が得意な人も苦手な人も、積極的に授業に参加することが大切です。
子どもは、皆さんもそうであったように、遊びを通して様々なことを学び、成長していきます。「おとな目線」だけでなく、時には「子ども目線」に戻って楽しみながら取り組みましょう。

平成25年度 フードデザインのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	フードデザイン	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース（選択）
使用する教科書	新版フードデザイン COOKING&ARRANGEMENT（教育図書）				
副教材等					

2 学習目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに、食育の推進に寄与する能力と態度を身に付けます。

3 学習方法

- ①現代の食生活の特徴について、健康面・安全面・環境問題・心理面など多方面から学びます。
- ②健康的な食生活を送る上で必要な知識や、クローン技術・遺伝子組み換え食品などの新しい技術について学びます。
- ③調理の基本を科学的に学びます。
- ④和洋中の調理実習を通して、基本的な調理技法を学びます。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	I) 食生活の充実・向上 ①食生活の変化と現状 ②よりよい食生活を創造するために 《調理実習①～④》 和食献立1 洋食献立1 中華献立1 菓子1 《食物調理技術検定3級受検対策》 （期末考査）	わが国の食生活の変化に伴う様々な問題点を、栄養・自給率・環境など多角的に学びます。 （学習形態） 講義、VTR視聴 《学習形態》 実習 《学習形態》 実技講習、講義	心身共に健康で豊かな食生活を営むための食事の在り方について考えることが出来たか。
第2学期	II) 健康・栄養・食物 ①なぜ食物が必要なのか ②健康に必要な栄養素 ③食品の成分と変化 ④食品の加工 III) 調理と献立 ①調理の基本 ②献立作成 ③様式別の献立と調理・食卓作法 ③テーブルコーディネート 《調理実習⑤～⑩》 食品加工1 和食献立2 洋食献立2 中華献立2 菓子2 行事食1 （期末考査）	各栄養素の種類と栄養的な意義、食品、それらの人体への影響を学びます。また、身近な加工食品について学びます。 （学習形態） 講義、VTR視聴 基本的な調理操作の方法や意味を学び、調理の基本を身に付けます。また、献立作成能力や様式別テーブルコーディネートの実践力を身に付けます。 （学習形態） 講義、VTR視聴、実習 《学習形態》 実習	・各栄養素の種類と働きを理解することができたか。 ・各ライフステージごとの栄養の特徴を知り、調理に生かすことができたか。 ・食品に関する様々な情報を収集し、適切に判断することができたか。 ・調理の目的について理解することができたか。 ・のぞましい献立作成のための留意点を理解することができたか。 ・各料理にふさわしいテーブルコーディネートを理解し、実践できたか。

第 3 学 期	《調理実習⑪～⑫》 行事食2 自主献立 (期末考査)	《学習形態》 実習，調べ学習	
------------------	---	-------------------	--

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。

我々人間にとって、「食」はなくてはならないものです。豊かな食生活は、健康面だけでなく精神的な満足感をも与えてくれるものです。

この授業では、講義で科学的・人文学的に食を学ぶと共に、実習でより高度な調理技術を身に付けていただきたいと思います。料理が得意な人も不得意な人も、自分自身の食生活を見直すきっかけとしませんか？

平成25年度 現代文（3年・2単位）シラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	現代文	単位数	2	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	第一学習社 高等学校 改訂版新編現代文				
副教材等	なし				

2 学習目標

・基礎的な語彙, 漢字, 表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。 ・さまざまなジャンルの文章に触れ, 読み味わうことで語彙力, 読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し, 視野や思考の幅をひろげ, 自らの考えを深める。 ・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール, コミュニケーション能力を高める。
--

3 学習方法

① 教科書を繰り返し音読する。 ② プリントを用いて漢字の練習を行う。 ③ ワークシートを利用し読解を深める。 ④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる
--

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 自己を見つめる 『青春の手帳』	・1年間の学習計画を理解する。 ・文章の構成や展開を正確にとらえる。 ・文章中の語句の正確な意味を確認し, 語彙を豊かにする。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて, 語句の正確な意味を調べられたか。
	5	身近な発見 『愛用品の五原則』	・文章中の語句の正確な意味を確認し, 語彙を豊かにする。 ・指示語の内容や接続語のつながりを正確に把握する。	・正しく内容が理解できたか。 ・指示語の内容, 接続語のつながりを把握することができたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて, 語句の正確な意味を調べられたか。
	6	人生の風景 『そこが空っぽになる』	・本文を通して, 人が人生を歩んでいく姿を見つめ, 自らの生き方について考える。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・これからの人生について考えることができたか。
	7	小説を読む (一) 『他人の夏』	・登場人物の心の動きを読み取る。 ・主題を相対化し, 自分の問題として受け取り, それについて考察する。	・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシートの提出。 ・主題を自分の問題として考えることができたか。
	9	人間と文化 『花女房』	・全文の構成をきちんと把握し, 論の展開を正確に読み	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシ

第 2 学 期			取る。 ・ キーワードをとらえ、全文の要旨をつかむ。	ートの提出。 ・ 辞書等を用いて、正しく表現できたか。
	10	小説を読む（三） 『形』	・ 本文の構成、内容の展開に対しての表現の特徴をつかむ。 ・ 「外面」と「内実」について考察する。	・ 表現の特徴をつかむことができたか。 ・ 漢字練習プリント、ワークシートの提出。 ・ 「外面」と「内実」について、自分の意見をまとめることができたか。
	11			
	12	言葉と思索 『犬も歩けば棒に当たる』	・ 身近な具体例を通して、筆者の考え方を理解する。 ・ 具体例と筆者の主張の関係をとらえる。	・ 文章の構成、内容の理解がなされたか。 ・ 漢字練習プリント、ワークシートの提出。
第 3 学 期		現代と世界 『人間は進化しているのか』	・ 二項対立を把握し、主張と具体例を読み取る。 ・ 人間のこれからあるべき姿について考察する。	・ 内容を理解することができたか。 ・ 漢字練習プリント、ワークシートの提出。 ・ 自分の意見を文章にしてまとめることができたか。
	1	小説を読む（六） 『山月記』	・ すぐれた短編小説の持つ、緊密な構成を理解し、鑑賞のしかたを学ぶ。	・ 文章の構成、内容の理解がなされたか。また語彙を理解することができたか。 ・ 漢字練習プリント、ワークシートの提出。
	2 3			

5 学習評価

評価の観点及び内容について

以下に示す五つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
3 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
4 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
5 知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

平成25年度 国語表現Ⅰの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	国語表現	単位数	2	履修学年・区分	3 学年
使用する教科書	教育出版 国語表現Ⅰ 改訂版				
副教材等	京都書房 基礎からの国語表現の実践				

2 学習目標

国語の基礎である漢字力・語彙力を豊かにすることによって、国語で適切に表現する能力を育成する。また、文章や音声で表現する力をつけることによって、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現し、社会生活を充実させる態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書の内容を，ワークシートを使いながら学習する。
- ② 副教材を利用し，漢字の読み書き等の言語事項を学習する。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を習得する。	正しい原稿用紙の使い方が習得できたか。
		作文「自己紹介」	原稿用紙を正しく使い，自己紹介文を書く。	自分らしい自己紹介文が書けたか。作文提出。
		⑧1 ことばに変える ステップ1 速く正確に書き写す	「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い，自己の表現能力の実態を把握する。	速く正確に丁寧に視写・聴写することができたか。プリント提出。
	5	⑧ステップ2 メモを取る・メモで伝える	必要な事項を聞き取り，メモを取る。また，それを人に伝えるための的確なメモを作る。	正確にメモを取り，的確なメモを作ることができたか。プリント提出。
		⑧ステップ3 絵をことばにする	情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける。	絵を言葉で的確に表現することができたか。プリント提出。
	6	⑨1 仮名づかいを正しく ⑨2 送りがなの送り方 ⑨3 文字の使い分け ⑨4 句読点・表記符号の使い方	副教材の問題演習。 基本的な表現に慣れる。 紛らわしい文章表現を正す。 効果的な正しい辞書の利用。	辞書を利用し，正しく解答できたか。テキスト提出。
	7	⑨9 正しい敬語表現	敬語表現を身につける。	正しい敬語表現を習得し，表現することができたか。テキスト提出。
第2学期	9	⑧2 声の表現 ステップ1 声を出そう	呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し，発音に留意した声の出し方を学ぶ。	呼吸の仕方を理解し，積極的に発声できたか。プリント提出。
		⑧ステップ2 文字を声に変える	文の構造を把握し，その意味を伝える音読の仕方、特に声	聞き手に伝わりやすい話し方を工夫して話すことができたか。

学 期	10	⑩ステップ3 スピーチの方法	の高低や間の工夫について学ぶ。 スピーチのための事前準備をする。	プリント提出。 スピーチに向けて、準備ができたか。プリント提出。
		⑩ステップ4 声の発表会	実際に本番を体験する。	発声や間の取り方、態度等に留意し、聞き手を魅了するスピーチをすることができたか。プリント提出。
	11	⑩9 世界との対話 ステップ1 場面に応じたことば〈手紙〉	伝統的な手紙の形式を学び、場面に応じたことばの意味について理解する。	手紙の形式について理解できたか。プリント提出。
	12	⑩25 手紙文を書く ⑩5 同音異義語に注意して書く ⑩6 同訓異字の書き分け	副教材の問題演習。 文脈を読み取り、同音や同訓の語句を書き分ける。 効果的な正しい辞書の利用。	テキスト提出。 辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
第 3 学 期	1	⑩7 類義語に注意して書く	副教材の問題演習。 場面や文脈に合った語句を選択する。	辞書を利用し、正しく解答できたか。テキスト提出。
	2	⑩8 慣用的な表現	ことわざや慣用句等を学習する。	
	3			

5 学習評価

評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
3 書く能力正しい文章表現	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
4 知識・理解	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。

※担当者より

基本的な国語表現を身につけ、自立した社会人として活躍していくためにも、こまめに辞書を引く習慣を身につけ、正しい国語表現を身につけましょう。また、作文や手紙文等の文章も目的にあったものが作成できるようにしましょう。さらに、音声で表現する体験をとおり、人前で堂々と発表する態度を身につけましょう。

平成24年度 音楽Ⅲの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅲ	単位数	2	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	改訂新版 高校生の音楽3				

2 学習目標

◎ 音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。〔要するに，音楽的な能力（楽器の演奏とか歌を歌うこととか音楽を聴くこととか）を高め，音楽好きな生徒を育てましょう！ということです。〕

3 学習方法

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く，積極的に音楽に取り組む，課題をきちんと提出する，これらのことを着実にこなせば，どんどん音楽の力はつきます。 中学時代に音楽の授業が苦手，もしくは嫌いだった人もいます。歌が苦手，笛が苦手，音符読めないから嫌い・・・安心してください。本校の芸術の授業は音楽のみですので，様々な種類の音楽を行います。歌，リコーダー，鑑賞，楽典（音楽のルール）全てを初歩から行いますので，実技系が苦手な人は筆記系（楽典，鑑賞）を頑張れば大丈夫です。 初めからあきらめずに意欲的に取り組みましょう。 ② 音楽Ⅰ，Ⅱよりも細かく楽譜についての勉強をします。基本から丁寧にやりますので一つ一つ理解していきましょう。 ③ アルトリコーダーを使用しますので，必ず用意してください。 ④ 必要に応じて，実技テストと筆記テストを行います。実技テストは授業の中で，筆記テストは定期考査期間中に行います。実技テストが苦手な人は筆記テストを頑張る，筆記テストが苦手な人は実技テストを頑張る，両方苦手な人は，両方頑張るといようにすれば大丈夫です。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	歌唱 楽典	- みんなで歌おう 「地上の星」 「川の流れるように」 - 歌曲の世界 日本の歌 ドイツリート イタリア歌曲 - 音階、音程、調性、リズム 楽譜の仕組みを、プリントを使い詳しく勉強します。	- それぞれの楽曲の情景を思い浮かべながら表現（歌唱）できたか。 - 友人たちと合わせて歌うことができたか。 - 各国の音楽の特徴、言葉の響きを理解し、歌うことができたか。 - 楽譜の仕組みを理解することができたか。プリント評価。
第2学期	器楽アンサンブル	- ボディー・パーカッション グループを作りリズム打ちを楽しみます。 - リコーダー	- リズムを上手く取ることができたか。 - グループで協力し合わせることができたか。 - 指使いを覚えて演奏することが

期	鑑賞	・オペラ，オペレッタ	できたか。 ・楽譜を理解し、演奏することができたか。 ・オペラやオペレッタについて理解を深め、鑑賞の結果、その音楽的印象を文章で表現し、共有できたか。
第3学期	鑑賞（日本の伝統音楽） 器楽（合奏）	・三味線について 人形浄瑠璃 ・ギターやリコーダーを使い、 グループで合奏します。	・日本の伝統音楽について、理解することができたか。 ・鑑賞した結果、その印象を自分の言葉で表現することができたか。 ・自分の役割を認識し、友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ、主体的にアンサンブルできたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や創造的な表現の技能」「鑑賞の能力」「表現の工夫」の4つの観点に基づいて行います。

音楽の成績を評価するときに、最も重視されるのは日々の授業に取り組む姿勢です。

音楽は体育同様「実技教科」です。日々の授業で身に付けた力を試すためにテストをします。（笛の練習を普段の授業で一生懸命やらなかったら、笛のテストで良い結果は残らないですね）

例えば、普段の授業で一生懸命苦手な笛の練習をしているけど、やっぱり笛は昔から苦手で、テストでは上手にできなかった、という人は、ちゃんと日々の努力を評価します。笛は得意だから普段の授業は怠けていてもテストでは上手にできる、という人も、ちゃんと日々の努力を評価して、成績は悪くつきません。筆記関係も同じです。

もちろん、私語をしていたり、出歩いたり等の授業のルールを守れない人は、話になりません。評価の対象外になります。

平成 25 年度 化学 I の学習（シラバス）

1. 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	化学 I	単位数	4	履修学年・区分	第 3 学年（選択）
使用する教科書	高等化学 新訂版 （実教出版）				
副教材等	アクセスノート化学 I 新訂版 （実教出版）				

2. 学習目標

化学 I では, 中学校理科や理科総合 A を基本に, さらに進んだ化学的な方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い, 基本的な概念や原理・法則を理解するとともに, 探究の過程を通して, 化学の方法を習得し, 科学的な自然観を身につけることを目標とします。

3. 学習方法

① TV 番組や新聞記事にも化学 I の内容を扱ったものは数多く見られます。興味ある分野は自分から積極的に触れていきましょう。 ② ノートはただ板書を写すだけでなく, 自分に分かりやすいようにまとめましょう。 ③ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い, 知識の定着を図りましょう。 ④ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。また, 実験結果から考察を導くことも忘れないように。

4. 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	序章 物質と人間生活	1 人間生活と化学の成果 2 化学のあゆみとその役割 3 化学の成果を有効に活用するために	
	第 1 章 物質の構成粒子	4 混合物とその分離	・物質の構成要素とその分離方法やその操作について理解する。 ・化合物・単体の成分と、元素について理解する。 ・原子の構造と周期性について理解する。 ・物質の成り立ちの違いと性質の違いを理解する。 ・原子量と質量の関係を理解し、分子量や式量の求め方を理解する。 ・物質量と質量・体積の関係を理解し、それぞれの値を計算により求める。
		5 単体と化合物	
		6 物質を構成する粒子	
		7 原子の構造	
		8 原子の電子配置	
		9 イオンからなる物質	
		10 分子からなる物質	
		11 金属と種々の結晶	
		12 元素の周期表	
		13 原子と分子量	
		14 物質量	
		15 気体の物質量	
		16 溶液の濃度	

	第 2 章 物質の変化	17 化学反応式 18 化学反応式が表す量的関係 19 反応熱と熱化学方程式 20 状態変化と熱化学方程式 21 ヘスの法則	・化学反応の基本の 2 法則を理解し化学反応式を立式する。 ・化学反応時の熱の出入りを理解し、その表現方法としての熱化学方程式を率式する。 ・ヘスの法則を理解する。
第 2 学期	第 2 章 物質の変化	22 酸と塩基 23 酸と塩基の価数と強弱 24 水素イオン濃度と pH 25 中和反応と塩 26 中和反応の量的関係と中和滴定 27 酸化と還元 28 酸化数と酸化剤・還元剤 29 酸化剤と還元剤の反応 30 金属のイオン化傾向と反応性 31 電池のしくみと反応 32 電気分解（1） 33 電気分解（2）	・酸と塩基の性質、酸化数を理解する。 ・水素イオン濃度と pH の関係を理解する。 ・中和反応をイオンの結合として捉え、生成する塩などの量的関係を理解する。 ・中和滴定曲線から、中和点や量的関係を求める。 ・酸化還元を酸素、水素、電子の移動で理解する。 ・酸化剤・還元剤の働きを理解し、金属のイオン化傾向を理解する。 ・電池のしくみを理解する。 ・電気分解の法則を理解する。 ・非金属元素の分類方法を理解する。
	第 3 章 無機物質	34 水素とその化合物 35 ハロゲンとその化合物 36 酸素・硫黄とその化合物 37 窒素・リンとその化合物 38 炭素・ケイ素とその化合物 39 アルカリ金属とその化合物 40 アルカリ土類金属とその化合物 41 アルミニウム・亜鉛とその化合物 42 鉄とその化合物 43 銅・銀とその化合物 44 金属の精錬 45 金属イオンの反応	・希ガスやハロゲン、酸素・炭素などの身近な元素とその化合物の性質を理解する。 ・金属元素の分類方法を理解する。 ・各金属元素の特徴・性質を理解し、それらの化合物の生成方法や特徴・性質を理解する。 ・複数の金属イオンの分離について理解し、操作できる。
第 3 学期	第 4 章 有機化合物	46 有機化合物の特徴と分類 47 アルカン 48 アルケンとアルキン 49 化学式の決定	・有機物とはどのようなものか理解する。 ・アルカン・アルケン・アルキンの特徴を理解する。

		50 アルコールとエーテル 51 アルデヒドとケトン 52 カルボン酸 53 エステルと油脂 54 芳香族炭化水素 55 フェノール類 56 芳香族カルボン酸 57 アリニンとアゾ染料	・ヒドロキシ基の数や構造によるアルコールの分類やそれぞれの性質を理解する。 ・エーテルの性質を理解する。 ・アルデヒドとケトンの性質を理解する。 ・カルボシル基を含む有機物について、それらの特徴を理解する。 ・エステルに関する反応を通して、エステルの特徴を理解する。 ・ベンゼン・フェノール・安息香酸などの違いや特徴が説明できる。 ・アゾ基の生成の仕方を理解する。
--	--	---	--

5. 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 お よ び 内 容	
1 自然の事物・現象に関する「関心・意欲・態度」	化学の現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
2 科学的な「思考・判断」	化学の現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する。
3 「観察・実験の技能・表現」	化学の現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 自然の事物・現象に対する「知識・理解」	観察、実験などを通して化学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成 25 年度 生物 I の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物 I	単位数	4	履修学年・区分	第 3 学年（選択）
使用する教科書	新編 生物 I（東京書籍）				
副教材等	スクエア最新図説生物（第一学習社）				

2 学習目標

この地球上にはたくさんの生物が生活しています。もちろんわれわれヒトも生物です。姿形や生活環境等はそれぞれ違います。しかし，すべての生物に共通していることがあります。それは細胞と呼ばれるものから作られているということです。細胞が集まって組織・器官を形成し，さらにそれらが集まって一つの個体を作り上げているのです。生物 I では，生物や生物現象についての観察，実験を行い，自然に対する関心や探究心を深め，生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに，科学的な自然観を身に付けけることを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事が身近にたくさんあります。積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには，板書を写すだけでなく，口頭での説明もきちんと記入しましょう。復習時にまとめれば，あなただけの参考書になります。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には，そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し，実験に臨みましょう。また，レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学 期	月	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学 期	4	序章：生物学を学ぶみなさんへ「生命」 探究活動の進め方 コンピュータの活用 顕微鏡の使い方	生物 I についての学習 内容や評価の方法を理解します。 サクラの開花を例として，生物の学習方法・研究方法を理解します。	・現象を観察した結果にもとづいて仮説を立て，仮説の検証を通して自然の法則が立証されることを理解する。

	5	1 編 細胞から個体へ 1 章 細胞のはたらきと構造 A 細胞は生命の基本単位 B 細胞のはたらきと構造	すべての生物が細胞からできていて、細胞が生命体の基本単位であることを理解します。 核や細胞質など、細胞内の構造や働きを、図や探究活動を通して理解します。	・細胞説を理解する。 ・細胞の構造について理解すると共に、それを構成する各器官の役割について理解している。 ・顕微鏡の構造や使用方法を習得している。 報告書（実験：細胞の観察） 報告書（実験：原形質流動）
		C 細胞膜の性質とはたらき D 酵素のはたらき	細胞膜を通して行われる細胞内外の物質の出入りを、細胞内の調節のしくみと関連させながら、図や観察を通して理解します。 生物の体の中では、酵素のはたらきによって、さまざまな化学反応が起こっていることを理解します。また、細胞内の化学反応で得られたエネルギーを生命活動に利用していることを理解します。	・細胞膜がもつ物質の透過性に関心を持ち、植物と動物における浸透の違いを探究している。 ・浸透圧と吸水力、膨圧を、グラフを含めて理解している。 報告書（実験：原形質分離） ・触媒は、それ自身は変化せず、化学反応を促進する物質であることを理解する。
		第1学期中間考査 範囲 教科書 P. 8～P. 27		
	6	2 章 細胞分裂 A 細胞の増殖 B 染色体の形状と数 C 細胞の分化	1 個の細胞がどのようにして増殖していくのかを、染色体に注目して図や探究活動を通して理解します。	・各時期における細胞分裂の特徴を理解し、知識を身に付けている。 報告書（実験：体細胞分裂）

第2学期	7	3章 生物のからだと細胞 A 単細胞生物と多細胞生物 B 動物のからだのつくりとはたらき C 植物のからだのつくりとはたらき	生物には、1個の細胞からなる生物や、多くの種類の細胞が集まってできている生物がいることを、図や観察を通して理解します。	・植物および動物の体を形作る、さまざまな組織の働きを探究することができる。
		第1学期期末考査 範囲 教科書 P.28～P.47		
	9	2編 生殖と発生 1章 生殖 A 無性生殖 B 有性生殖 C 減数分裂 D 有性生殖で生じる多様性	生殖にかかわる細胞を作るための細胞分裂としての減数分裂のしくみを、染色体に注目して図、観察を通して理解します。	・生殖には無性生殖と有性生殖とがあることを理解し、知識が身に付いている。 ・減数分裂の過程、その特徴、また、体細胞分裂との違いなどを理解し、知識が身に付いている。
		2章 動物の生殖と発生 A 配偶子の形成と受精 B 受精 C 発生の始まり D ウニの発生 E カエルの発生	動物と被子植物の生殖細胞の作られ方や受精のしかたを、図や観察を通して理解します。 受精卵から親と同じ形をした個体になるまでの過程を、ウニやカエルを例に、図や観察、視聴覚教材等で理解します。	・動物における配偶子の形成過程および、被子植物の配偶子の形成について理解し、知識が身に付いている。 ・卵割の過程が、動物の種類によって少しずつ異なることを中心に理解し、知識が身に付いている。
		3章 発生のしくみ A 発生のしくみをとらえよう B 発生を導くしくみ～形成体と誘導～ 4章 植物の生殖と発生 A 被子植物の生殖細胞の形成	どのようなしくみで生物の複雑な体が作られていくのかを、図や探究活動を通して理解します。 動物の発生と異なる発生過程を、サクラを例に図や視聴覚教材等で理解します。	・調節卵とモザイク卵の違いを認識する。 ・原口背唇と呼ばれる部分に関心を持ち、その働きを探究する。 ・被子植物の特徴である重複受精を理解し、知識が身に付いている。

	10	第2学期中間考査 範囲 教科書 P.48～P.85		
		3編 遺伝 1章 遺伝の法則 A メンデルの実験 B 一遺伝子雑種 C 二遺伝子雑種 D いろいろな様式の遺伝	生物が持つ形質が、親から子へと伝えられる遺伝という現象とその法則性を、図や資料学習、演習問題、探究学習を通して理解します。	・優性の法則、分離の法則、独立の法則という三つのメンデルの法則について、一つ一つ明確に理解し、知識が身に付いている。
		2章 遺伝子と染色体 A 染色体説 B 連鎖と組換え	染色体が性決定に関わりがあることや、遺伝子の連鎖や組換えについて、図や実習、観察を通して理解します。	・遺伝子が染色体に存在することを認識する ・遺伝子が連鎖していないで、違いが生じることを理解し、知識が身に付いている。
		3章 性と遺伝 A 性の決定 B 伴性遺伝		報告書（実験：巨大染色体） 報告書（実験：DNA抽出）
	11	4章 遺伝子の本体 A 遺伝子とDNA B 形質転換 C バクテリオファージの実験 D DNAの特徴 E DNAの構造	遺伝子の本体について、研究者の実験例や観察、実習を通して、理解します。	・形質転換を起こさせる物質はタンパク質ではなくDNAであることを理解する。 ・DNAの構造が二重らせんであることを理解する。
	12	第2学期期末考査 範囲 教科書 P.86～P.115		
		4編 刺激の受容と行動 1章 刺激の受容から反応まで A 刺激の受容から反応までの流れ B 刺激の受容 C 刺激と興奮 D 神経系 E 効果器のはたらき	神経系や感覚器官、効果器の構造やはたらきを、図や探究活動を通して理解します。 神経系のつくりや中枢神経のはたらきについて、図を用いて理解します。	・神経細胞の構造および、興奮の伝導・伝達の違いを理解し、知識が身に付いている。 報告書（実験：盲斑の存在と形） 報告書（実験：鶏頭の解剖）

第 3 学 期	1	2 章 動物の行動 A 走性 B 本能行動	動物の特徴的な生得的な行動を，視聴覚教材を通して理解します。	・生物が生まれながらにもつ様々な行動や，生物が生後獲得する行動を理解する。
		5 編 内部環境と恒常性 1 章 内部環境と体液 A 外部環境と内部環境 B 体液の組成とはたらき C 体液の成分の調節	恒常性の調節の仕組みについて，図や視聴覚教材を通して理解します。 血液・組織液・リンパ液などの体液の循環やはたらき，生態防御について，図や視聴覚教材を通して理解します。 腎臓の構造とはたらきについて，図や視聴覚教材を通して理解します。	・ 外部環境と内部環境の違いを学ばせ、内部環境を一定に保つしくみを恒常性と呼ぶことを理解する。 ・ 体液の種類およびそれぞれの組成とはたらきを理解する。 ・ ヒトの腎臓の構造とはたらきを学ばせ、尿が形成されるしくみを理解する。
	2	学年末考查 範囲 教科書 P.116～P.159		
		2 章 自律神経系と内分泌系 A 自律神経系による調節 B 内分泌系による調節 C 自律神経系と内分泌系による調節	ホルモンや自律神経について，図を用いて理解します。 内部環境が一定に保たれるしくみを，図を用いて理解します	・生物の内部環境が常に一定に保たれるのは，ホルモンと自律神経系の調節によるものであることを理解する。
		6 編 環境と植物の反応 1 章 植物の生活と環境 A 植物が生きていくための条件 B 水を植物全体に行き渡らせるしくみ C 光合成と環境条件	植物と環境要因について，図や資料学習を通して，理解します。	・植物の成長には，光，水，二酸化炭素が必要であり，動物と同じように植物ホルモンにより成長が調節されていることを理解する。
		2 章 植物の反応と調節 A 植物の発芽から落葉・落果まで B 種子の発芽と環境要因 C 花芽形成の調節	植物の成長の調節のしくみや花芽形成，発芽の調節のしくみを，図や視聴覚教材を通して理解します。	・植物の休眠、発芽、分化、茎の伸長、開花、落葉、落果などには多くの植物ホルモンが関与していることを理解する。

		D 植物の成長と環境要因 E 落葉と結実の調節		る。
--	--	----------------------------	--	----

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 自然の事物・現象に対する「関心・意欲・態度」	生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
2 科学的な「思考・判断」	生物や生物現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する
3 「観察・実験の技能・表現」	生物や生物現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 自然の事物・現象に対する「知識・理解」	観察、実験などを通して生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成25年度 日本史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書等

科 目 名	日本史B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用教科書	『新選日本史』（東京書籍）				
副教材等	『新詳日本史』（浜島書店）				

2 学習目標

わが国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し，わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養い，真の国際化に対応できることを目標とします。

3 学習方法

（１）常日頃から，社会事象（時事問題，世界の情勢）に興味・関心を持ち，新聞や雑誌などに目を通す習慣を身につけましょう。また，テレビやラジオのニュースなども視聴し，わからない言葉や地名が出てきたら，事典や地図帳で確認することが大切です。 （２）「地理」「歴史」とともに必要最小限のことは暗記することが大切です。しかし，やみ雲に暗記できるわけではありません。「何故このようなことが起こったのか。」，「何故このような産業が盛んなのか。」，「何故このような問題が生じたのか。」常にその背景について考え，理解を深めながら整理して覚えましょう。ＴＶの紀行番組，歴史番組や特集番組も大変役立ちます。また，歴史的な事象に対する興味・関心をさらに深め，発展的な学習に取り組むには，歴史に関する解説書や小説などを読んだり，博物館や郷土資料館などに行き実物を見ることもいいでしょう。 （３）読書の習慣を身につけましょう。ゲームやファッションなどの娯楽に流され，活字離れの社会風潮がありますが，若い時代，感受性の高いときに読んだ本は生きた知識・教養になります。 （４）授業では必ず，資料集や地図帳など副教材を用意すること。授業は教科書，プリント副教材等を使用して進めます。教科書の授業範囲をよく読んで，基本的事項を理解し，わからないところや疑問点を整理して授業に臨みましょう。板書事項以外でも大切なことはメモを取りましょう。受身の学習ではなく，自ら学ぶ学習を心掛けよう。自分から求めた知識は生きた知識になります。また，復習の際は，授業内容を確認し，基礎的な内容の問題集に取り組んでみましょう。学習内容のまとめ毎に，確認テストを行います。 （５）重要な事項や地名・人物名は何度も書くことによって覚えましょう。自分流のサブノートを作って整理すると，理解が深まります。問題集を活用し，単元ごとに問題を解き，実践を積み重ねればより効果的です。
--

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 第1章 古代国家の形成と古代文化	授業の進め方等について説明する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト①を行う。
	5	① 原始社会の生活と文化 ② 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 ③ 律令国家の形成と古代文化の展開 ④ 貴族政治と国風文化の発達	原始共同社会から農耕を通し階級・身分制度が成立する過程を学ぶ。 律令体制に基づく古代社会の枠組みを学ぶ。	
	6	1学期中間考査 範囲： p 5. ～ p 6 2.		

	7	第2章 武家社会の形成と中世文化 ① 武家社会の形成と文化の新気運 ② 下剋上の社会と庶民文化の萌芽 1学期末考查 範囲： p 63. ～ p 102.	院政以降，貴族政権から武家政権に転換する背景を探る。 室町文化の性格と戦国時代の実情を理解する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト②を行う。
第2学期	8 9	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 ① ヨーロッパ文化の接触と国内統一 ② 幕藩体制の成立 ③ 近世社会の発達と町人文化 ④ 近世社会の動揺と庶民文化の発達 2学期中間考查 範囲： p 103. ～ p 156.	鉄砲とキリスト教が，信長→秀吉の統一事業に与えた影響を知る。 江戸幕府成立の過程を学ぶ。 幕政の安定と経済・社会の仕組みについて理解する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト③を行う。
	10 11 12	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 ① 開国から明治維新へ ② 立憲政治の形成と国民文化 ③ 日本の近代化東アジア④ デモクラシーと市民文化 ⑤ 激動する世界と日本 2学期末考查 範囲： p 157. ～ p 238.	幕末から明治へと激動の時代を学び，近代国家形成の課程を学ぶ。 民主主義の形成，国民文化の発展を学ぶ。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・確認テスト②を行う。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト④を行う。
第3学期	1	第5章 現代の世界と日本 ① 占領と国内改革 ② 国際社会への復帰と高度経済成長 ③ 石油危機と低成長の時代 ④ 新しい国際秩序と日本の課題 学年末考查 範囲： p 239. ～ p 289.	戦後の日本の復興から発展そして現代へとどのように推移してきたかを学ぶ。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト⑤を行う。 ・3年次の学習を終えた時点で，学習の成果を生かして，生徒が設定する課題による追究学習を実施し，レポートにまとめ提出する。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価規準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	原始・古代から現代に至るまでの我が国の歴史の変遷を学習する。その際に政治の流れや経済の発展過程を学ぶだけでなく、文化の特徴や歴史上の人物についても学習する。近現代の歴史では、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせる授業を展開し、近現代史を中心とする自国の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
2 思考・判断	自国の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせ、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
3 技能・表現	自国の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
4 知識・理解	自国を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を世界史的視野に立って各国との関連も考えながら理解し、その知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観 点 1	観 点 2	観 点 3	観 点 4	備 考
学習状況の観察	◎	—	—	○	自己評価の実施。
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施。
課題追究レポート	○	◎	○	○	学年末に提出。
提出物	○	—	○	○	学習の取り組み状況の確認。
定期考査	○	◎	◎	◎	定期考査年 5 回実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成25年度 地理Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	地理B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用する教科書	高等学校 世界地理B（帝国書院） 標準高等地図（帝国書院）				
副教材等	高等学校 世界地理Bノート（帝国書院）				

2 学習目標

- ・自然と人間生活のかかわりを理解する。
- ・現代世界のグローバル化の動きを捉える。
- ・地理的な見方，考え方を身に付ける。

3 学習方法

- ① 地理の勉強は暗記ではありません。
- 地理の学習では、「なぜそうなるのだろうか」という問題意識を持つことで、興味関心が高まります。次に、その原因を探り、解決に向けての行動を考えていくことが自分自身の探求に繋がるのです。つまり、地理用語だけを暗記しても、地理の学習は難しいということです。
- ② 日々の授業が一番大切です。
- 主体的にノートをとりましょう。教師の説明や余談も含めて、興味を持ったエピソードや理解不十分な点も含めて、自分なりにメモして自分だけのオリジナルノートを作りましょう。
- ③ 自分の考えや疑問をみんなで共有しましょう。
- 分からない点や疑問に思うことは、その時に質問しましょう。あなたの質問が、授業を受けるみんなの新しい知識や理解に繋がります。
- ④ 一家に一冊「地図帳」を置きましょう。
- 常日頃から社会情勢に関心を持ち、テレビのニュースや新聞を見ましょう。その際、分からない地名は地図帳で確認する習慣を身に付けることが大切です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	1章 自然環境の多様性 1節 世界の地形と人々	・世界の地形の概要と分布について理解する。河川が作る地形や海岸の地形などについて形状を理解するとともに、人間生活との関連を理解する。	・身近な地形の形状・生活との関連の一般的共通性や地域的特殊性について理解し、それらの知識が身に付いたか。
	5	2節 世界の気候と人々 2章 世界の生活と文化 1節 世界の衣食住	・世界には種々の気候が存在することを理解する。その分布・成因・特徴を理解するとともに、人間の生活との関連を理解する。 ・世界各地で衣食住に代表される生活文化が異なることを理解するとともに、共通性と特殊性を生み出す原因について考察する。	・世界各地の気候の特色を理解し、それらが人間生活とどのような関連を持っているかについての知識が身に付いたか。 ・世界各地の衣食住が自然環境と密接に関係していること、世界各地の文化と宗教との関連、またグローバル化が進んだことによって変化している世界各地の生活・文化についての興味・関心をいだき、主体的に学習できたか。
		2節 世界の都市と村落	・世界各地の都市・村落の発生・発達・現状を理解し、それによって生じる都市問題の一般的共通性・地域的特殊性について理解し考察する。	・世界の都市と村落の発生と発達、都市の拡大と変化に伴う様々な都市問題の発生とその解決方法を理解し、それらの知識が身に付いたか。

	6	3節 消費・余暇活動の変化 3章 世界の産業 1節 世界の農業	・世界各地の消費・余暇活動の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。 ・世界各地の農業の一般的共通性と地域的特殊性を理解する。農業と自然環境の関連、農業と社会環境との関連を理解する。	・世界各地の消費・余暇活動がどのように異なるか、それらの特色が何に起因しているか、なぜ近年変化が生じているのかを資料をもとに思考・考察できているか。 ・自然環境との関連によって世界の農業にはどのような特性があるのか、世界や日本が抱えている農業問題の現状とその解決策を理解するとともに、それらの知識が身に付いたか。
	7	2節 世界の鉱工業 4章 現代世界の諸地域と近隣諸国の調査 1節 地域のスケールと調査の視点 2節 市町村規模の地域の調査	・世界各地の鉱工業や資源・エネルギーの一般的共通性と地域的特殊性を理解する。鉱工業や資源・エネルギーと社会環境との関連を理解する。 ・地域調査の意義と技法について理解する。調査対象とする地域のスケールに応じて地域調査の方法が異なることを理解する。 ・市町村規模の地域調査の技法を習得する。対象とする地域と自らの距離に応じて調査方法が異なることを理解する。	・社会環境と鉱工業、資源・エネルギーとがどのように関連し影響を与え合っているのか、世界や日本が抱えている環境問題の現状とその解決策を理解するとともに、それらの知識が身に付いたか。 ・身近な地域の地域調査を実施して、地域の特色を見いだすことに興味・関心をいだき、主体的に学習することができたか。
第2学期	9	3節 国規模の地域調査 1 オーストラリア 2 アメリカ合衆国 3 インド	・国規模の地域調査の技法を習得するとともに、対象地域であるオーストラリア・アメリカ合衆国・インドの特色について理解する。	・興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	10	4節 州・大陸規模の地域の調査 1 東南アジア 2 中央アジア・西アジア・北アフリカ 3 ヨーロッパ	・州・大陸規模の地域調査の技法を習得するとともに、対象地域である東南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカ・ヨーロッパの特色について理解する。	・興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	11	5節 近隣諸国の研究 1 中国の研究 2 韓国の研究	・国規模の地域調査の技法を利用し、対象地域である中国・韓国・ロシアの国としての特色、近隣諸国としての特色について理解する。	・興味・関心を持った事項に関して主体的に学習することができたか。 ・対象地域の特色を理解し、それらの知識が身に付いたか。
	12	3 ロシアの研究		
第3期	1	5章 現代世界の地理的認識 1節 地図でとらえる現代世界 2節 地域区分でとらえる現代世界	・地図が世界の諸事象を表現していることを理解する。事象を地図化することでわかりやすくできることを理解するとともにその技法を習得する。 ・世界は事象によって地域区分されることを理解するとともに、地域区分をすることで、世界をよりの確に把握できる	・地図からそこに表現されている事象を適切に読み取る技法や、事象を最も適切に地図化する技法が身に付いたか。 ・地域区分された世界図から事象の特色を読み取る技法や、事象をもとに世界をより適切に理解するために地域区分する技法が身に付いたか。

学 期		3節 結びつきを強める現代世界	ことを理解する。 ・国家や国家群による世界の結びつき、交通・通信の発達による社会の変化、貿易による国家・地域間の結合を理解するとともに、世界の中で地域は孤立して存在し得ないことを理解する。	・現代世界において国家がどのような意味をもっているのか、国家が国家群を形成する理由とその功罪について思考・考察できているか。交通・通信の発達が世界をなぜどのように変化させていったか、その功罪について思考・考察できているか。
	2	6章 現代世界の諸課題と解決への地理的アプローチ 1節 人口・食料問題 2節 環境問題	・地球的な課題の一例としての人口・食料問題について理解するとともに、その解決の方策を考察し、提言できるようにする。 ・地球的な課題の一例としての環境問題について理解するとともに、その解決の方策を考察し提言できるようにする。	・人口・食料・環境問題の発生の背景と理由について思考・考察ができたか。 ・発展途上国と先進国における人口・食料・環境問題の原因・背景と現状について思考・考察ができたか。
	3	3節 民族・領土問題	・地球的な課題の一例としての民族・領土問題について理解するとともに、その解決の方策を考察し、提言できるようにする。	・世界各地における民族・領土問題の原因・背景と現状について思考・考察ができたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	主体的にノートをとることができているか。また、作業や話し合いに積極的に参加しているか。
2 思考・判断	地理的見方・考え方を身に付け、世の中の事象について多面的に考えられるか。
3 資料活用 of 技能・表現	地図や統計データ、分布図等を的確に読み取り、また自分でも作成できるか。
4 知識・理解	基本的な視点を持ち、様々な課題やその関連性について理解を深め、その一連の知識を身に付けているか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	—	—	○	出席状況・授業への取り組み状況
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施
提出物	○	—	○	○	課題プリントの取り組み状況
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成25年度 簿記のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	簿記	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース(選択)
使用する教科書	新簿記新訂版(実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①簿記に関する基礎的・基本的な用語を理解しましょう。
- ②多岐にわたる帳簿記入のルールを覚えましょう。
- ③正確な計算により適正な会計をしましょう。

3 学習方法

- ①ルールや簿記用語を覚えるために、重要事項をノートにまとめます。
- ②基本問題をしっかり理解し、応用問題へ発展させます。
- ③練習問題を沢山解くことにより、学習を定着させます。よって、とにかく沢山書きます。
- ④簿記の用語は漢字が多いので、繰り返し書いて覚えます。やはり、沢山書きます。
- ⑤正確な計算が要求されます。正確で速い計算能力を身に着けるよう練習します。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1編簿記の基礎	・簿記の基礎 ・貸借対照表の作成 ・損益計算書 ・取引と勘定 ・仕訳と転記 ・仕訳帳と総勘定元帳 ・試算表 ・6桁精算表	・簿記の意味や目的などが理解できたか。 ・簿記上の取引が理解できたか。 ・貸借対照表が作成できたか。 ・損益計算書が作成できたか。 ・取引の分解と勘定記入ができたか。 ・仕訳と転記ができたか。 ・仕訳帳と総勘定元帳の記入方法が理解できたか。 ・試算表が作成できたか。 ・貸借が一致しない場合の確認方法が理解できたか。 ・6桁精算表が作成できたか。 ・6桁精算表と損益計算書・貸借対照表との関係が理解できたか。
	第1学期期末考査		
第2学期	第2編取引の記帳	・現金・預金などの取引 ・掛け取引 ・手形の取引	・現金として扱うものについて理解できたか。 ・現金出納帳が作成できたか。 ・当座預金と小切手の関係が理解できたか。 ・当座預金出納帳が作成できたか。 ・小口現金出納帳が作成できたか。 ・売掛金、買掛金に関する仕訳が理解できたか。 ・手形の記入内容が理解できたか。 ・約束手形・為替手形と記帳上の支払手形・受取手形の関係が理解できたか。
	第2学期期末考査		

第 3 学 期	第4編伝票 <u>学年末考査</u>	・ 仕訳問題の総復習 ・ 3 伝票制	・ 仕訳問題が解けるか。 ・ 取引を伝票に起票できたか。 ・ 伝票集計ができたか。
------------------	-----------------------	---	---

5 学習評価

(1) 評価方法

- ①実技テストの点数。
- ②小テストの点数。
- ③授業への取り組み・態度。
- ④出席状況。

(2) 評価の観点

関心・意欲・態度	簿記について関心をもち、主体的に取り組む態度を身に付けている。
思考・判断・表現	適正な会計処理を目指して思考を深め、適切に判断し表現する能力を身に付けている。
技能	簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、基本的な仕組みについて理解している。

以上を総合的に判断し，評価します。

平成25年度 情報処理のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名 情報処理	単位数 3	履修学年・区分	第3学年Aコース
使用する教科書	情報処理21 新訂版(実教出版)		
副教材等			

2 学習目標

- ①全国商業高等学校協会主催ワープロ実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ②ソフトウェア（ワード・エクセル・パワーポイント・ムービーメーカー）の技術を身につけましょう。
- ③新聞やインターネットを通して情報を収集し、理解しましょう。

3 学習方法

- ①パソコン実習が中心です。「習うより慣れろ」の精神です。時々、実技テストを実施します。
- ②パソコンを使うために必要な用語等を理解しましょう。基礎知識も身につけて社会人になりましょう。必要に応じ、小テストを実施し、評価に含めます。
- ③新聞やインターネット、DVD教材等を活用します。情報を収集し、的確に理解することが大切です。この活動は就職・進学試験の面接や社会人になった時に、皆さんの役に立つと思います。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	<u>ワードの学習</u> 第1章 第3節 3 ソフトウェアの基本操作	・パソコンの基本操作の確認。 ・ワードによる文字入力の実習。 ・ビジネス文書の形式、内容についての学習。 ・ワープロ実務検定試験の希望級（第1～4級）の決定。 ・筆記試験対策。 ・実技試験（速度・文書）対策。 <検定試験受験>	・パソコンを責任を持って適切に扱っているか。 ・ローマ字入力、ブラインドタッチができていないか。 ・ビジネス文書について理解できたか。 ・パソコン用語・ビジネス用語・国語的内容（漢字・読み・諺・敬語等）について理解できているか。説明事項をプリントに記入できているか。 ・（速度）10分以内に各級の問題を正確に打ち終えることができるようになったか。 ・（文書）15分以内に各級の指示にあるビジネス文書を適切に入力できているか。
第2学期	<u>エクセルの学習</u> 第1章 ビジネスと情報処理 第2章 表計算ソフトウェアの活用	・ビジネスとコンピュータ ・ハードウェアとソフトウェア ・表計算 ・グラフ作成	・ビジネスにおけるコンピュータの利用について理解できたか。 ・コンピュータの構成要素が理解できたか。 ・表の作成方法が理解できたか。 ・関数が理解できたか。 ・グラフ作成方法が理解できたか。

	第5章 情報通信ネットワーク	・インターネットの利用について	・情報通信の仕組みが理解できたか。 ・情報を収集し、適切に利用できているか。
	第6章 情報化社会のセキュリティとモラル	・情報化社会の問題点と対処について	・情報化社会の問題点について理解できたか。 ・著作権・肖像権について理解できたか。
	パワーポイントの学習	・プレゼンテーションの実施	・パワーポイントの操作方法を理解できたか。 ・報告書が作成できたか。 ・発表ができたか。
第3学期	ムービーメーカーの学習	・デジタルカメラで写真撮影 ・作品制作	・デジタルカメラでの撮影方法・取り込み方法が理解できたか。 ・肖像権に配慮できたか。 ・多くの観点から評価する（例：ストーリー性、画像編集・適切なコメント、印象、個性等）。 ・生徒同士の相互評価も実施する。

5 学習評価

(1) 評価方法

- ①実技テストの点数。
- ②小テストの点数。
- ③授業への取り組み・態度。
- ④出席状況。

(2) 評価の観点

関心・意欲・態度	情報の収集・処理について関心をもち、主体的に取り組む態度を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、判断・表現する能力を身に付けている。
技能	情報の収集・処理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	情報の収集・処理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。

以上を総合的に判断し、評価します。

平成25年度 商業技術のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	商業技術	単位数	2	履修学年・区分	第3学年Aコース(選択)
使用する教科書	商業技術(実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①商業文書に関する知識と作成技術を身につけましょう。
- ②全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ③商業デザインについて理解しましょう。

3 学習方法

- ①ビジネス文書について理解を深めます。
- ②パソコンで実習します。
- ③正確な計算が要求されます。正確で速い計算能力が身に着くよう、繰り返し練習します。
- ④商業デザインについて理解を深めます。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1部商業文書 電卓実務検定試験にむけての学習	・ビジネス活動と文書情報 ・基本文書 ・電卓計算の問題	・ビジネス文書の種類や機器について理解できたか。 ・ソフトウェアを利用し、練習問題を完成することができたか。 ・基本文書の構成要素が理解できたか。 ・基本文書を作成することができたか。 ・はがきや封筒を見本のように、丁寧に書くことができたか。 ・正確な計算ができたか。
第2学期	第1部商業文書(その2) 第2部商業デザイン	・乗算・除算・見取算・伝票算 ・2級から1級へ ・応用文書 ・商業デザインとは ・商業デザインの制作	・各種目の計算方法が理解できたか。 ・より早く、正確に計算できたか。 ・多様な機能を利用し、応用文書を実際に作成できたか。 ・商業デザインについて理解できたか。 ・身の回りの商業デザインについて気が付いたか。 ・テーマにあったデザインを考えることができたか。
第3学期		・商業デザインの制作の続き	・考えたデザインを実際に制作できたか。

5 学習評価

(1) 評価方法

- ①実技テストの点数。
- ②小テストの点数。
- ③制作物への取り組み・技術。
- ③授業への取り組み・態度。
- ④出席状況。

(2) 評価の観点

関心・意欲・態度	商業文書・計算・商業デザインについて関心をもち、主体的に取り組む態度を身に付けている。
思考・判断・表現	商業文書や商業デザインについて思考を深め、適切に判断し表現する能力を身に付けている。
技能	商業文書・計算・商業デザインに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	商業文書・計算・商業デザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、基本的な仕組みについて理解している。

以上を総合的に判断し、評価します。

平成 25 年度 数学Ⅱのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第3学年 Bコース
使用する教科書	啓林館 高等学校 新数学Ⅱ				
副教材等					

2 学習目標

1章では方程式と式の証明について、2章では図形を方程式で表して図形を調べる方法、3章では指数が0や負の整数、分数になるものなどを学習します。新しく学習する内容に興味を持ち、数学的な考え方ができるようになるとよいと思います。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかりと聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦勞して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 式と証明 1. 整式の除法 2. 分数式の計算 3. 式の証明 2章 方程式 1. 複素数 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 4. 高次方程式	- 余りのある整式の除法 - 剰余の定理 - 分数式の乗法・除法 - 分数式の加法・減法 - 等式の証明 - 比例式の証明 - 不等式の証明 - 相加平均と相乗平均 - 複素数 - 複素数の計算 - 判別式 2数を解とする2次方程式 2次式の因数分解 - 因数定理 - 因数定理の利用	整式の除法をし、商と余りを求められる。剰余の定理を理解する、 分数式の計算ができる。 等式、不等式の証明の方法を理解し、証明ができる。 虚数単位iについて理解する。複素数の和、差、積、商を計算し、$a+bi$の形で表せる。 複素数を解にもつものも含めた2次方程式を解ける。2次方程式の解を判別できる。 解と係数の関係を理解する。 因数定理を理解し、それを用いて3次式以上の因数分解、さらに高次方程式が解ける。
第2学期	3章 図形と方程式 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式	2点間の距離 - 中点 - 内分点 2点間の距離 - 内分点 1点と傾きで決まる直線 2点を通る直線 2直線の交点の座標 - 平行な2直線 - 垂直な2直線 - 円と直線	直線上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。 平面上において、点の座標が求められる。2点間の距離を求められる。2点を結ぶ線分ABをある比に内分する点の座標を求められる。 平面上の直線と方程式の関係が分かる。 2直線の交点の座標や関係が分かる。 円と方程式の関係が分かる。円と

			直線の共有点の座標が求められる。
第3学期	6. 軌跡と方程式 7. 不等式の表す領域	・ $x > h$ の表す領域 ・ 円と領域	軌跡について理解する。 不等式とその表す領域の関係が分かる。

5 学習評価

評価については、次の4つの観点を検討します。 ・ 関心・意欲・態度～授業中の態度，問題集やノート等提出物で評価します。 ・ 数学的な見方や考え方～授業中の質問や問題演習における板書等で評価します。 ・ 数学的な技能～定期考査・小テスト・プリント問題集等の結果で評価します。 ・ 知識・理解～授業中の態度・定期考査・小テスト・プリント問題集等の内容で評価します。 授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成 25 年度 数学Bのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学B	単位数	3	履修学年・区分	第3学年Aコース
使用する教科書	啓林館 高等学校 新数学B				
副教材等	啓林館 ファンダノート 数学B				

2 学習目標

第1章では数列について、第2章ではベクトルについて学習します。
 数列では、ある規則に従って並んでいる数の規則について考え、式で表したり、和を求めたりすること、ベクトルでは、大きさや向きをもったベクトルというものについて理解し、身近な図形の中などで利用することを目標にしていきたいと思います。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかりと聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1章 数列 1. 数列とその項 2. 等差数列 3. 等比数列	- 数列 - 数列の一般項 - 等差数列 - 等差数列の和 - 等比数列 - 等比数列の和	数列の規則に気づき、一般項を式で表せる。 等差数列の性質を理解し、一般項が求められる。等差数列の初項から第n項までの和が求められる。 等比数列の性質を理解し、一般項が求められる。等比数列の初項から第n項までの和が求められる。
第2学期	第2章 ベクトル 1. ベクトルとその計算 2. ベクトルの成分 3. ベクトルの内積	- ベクトル - ベクトルの和 - ベクトルの差 - ベクトルの実数倍 - ベクトルの計算法則 - ベクトルの平行 - ベクトルの成分表示 - 和, 差, 実数倍の成分 - ベクトルの内積 - 内積と成分 - 内積の計算法則	ベクトルの定義について理解する。平面上に表されたベクトルの和, 差, 実数倍を表すベクトルを図示できる。ベクトルの計算法則を理解する。平行なベクトルを式で表せる。 平面上に表されたベクトルを成分で表せる。成分表示したベクトルの大きさを求められる。成分表示したベクトルの和, 差, 実数倍を成分で表せる。 0でない2つのベクトルとそのなす角が分かっているとき, その内積を求められる。成分表示されたベクトルの内積を求められる。内積の計算法則を理解する。
第3学期	第2章 ベクトル (続き) 4. 位置ベクトル	- 位置ベクトル - 内分点・外分点の位置ベクトル	線分ABをある比に内分する点, 外分する点の位置ベクトルを, 点A, Bの位置ベクトルで表せる。

5 学習評価

評価については、次の4つの観点から考慮します。

- ・関心・意欲・態度～授業中の態度、問題集やノート等提出物で評価します。
- ・数学的な見方や考え方～授業中の質問や問題演習における板書等で評価します。
- ・数学的な技能～定期考査・小テスト・プリント問題集等の結果で評価します。
- ・知識・理解～授業中の態度・定期考査・小テスト・プリント問題集等の内容で評価します。

授業を大切に、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。